

テーマ別講師研究会成果報告書

研究会名	女性論男性論研究会	代表者名	吉田理恵
------	-----------	------	------

■研究成果

1. 研究テーマ

すべての人が働きやすく暮らしやすい会社と社会を実現するために、女と男に関わる様々な問題を研究する。

2. 研究に至る課題意識

女性であるがゆえの不利益・不都合、もしくは特別扱いによる利益を少なからず経験してきた女性講師たちが、自らの待遇改善のみならず、全講師、全社員が働きやすい会社とはどのようなものか、現状の把握と改善点の提案を行っていく。

女性のマネジメント職 2016年 30%→2021年 37% (81人) 理事長より解答

女性講師 2021年九州 23%.仙台 0%/古文 40%.数学 6%

3. 研究の進め方

10人超の女性講師が、担当持ち回りでテーマを決めて発表。

テーマによっては男性講師や外部講師からの情報収集および発表もあり。

4. 具体的な成果

2000年からのセクシュアルハラスメント防止対策委員会、2009年からのハラスメント防止対策委員会設立に関わり、運営部や相談部、地区委員および相談員にメンバーが参加してきた。

2023年3月 (2022年度)

*河合塾における女性管理職の現状と未来

2024年3月 (2023年度)

*男性講師による育休の取得が2件…該当教化他講師および教務部の協力により実現

*河合塾が被告となった裁判事例の確認と検証 (担当: 吉田)

2025年3月 (2024年度)

*「大学入試の小論文におけるジェンダー論」 (担当: 尾上)

日本のジェンダーギャップ指数 118位/148か国 (2024年度.2025年度も同順位)

政治・経済において格差が大きな原因を考えさせる入試問題が出題されている。

(令和3年度福岡県立大学人間社会学部.令和5年度九州大学共創学部)

*「女性と男性 性分化と性スペクトラム」 (担当: 染谷)

『性スペクトラム』とは性の連続性 (勾配) を意味する言葉で、典型的なオスを 100%オスと仮定すれば、連続した勾配のなかで 90%オスや 70%オスという状態があるという考え方があり。また精神的な性分化にも今後解明されるべき課題が残っている。